こくご 一下 ともだち

光村図書

こくご 一下 ともだち

文部科学省検定済教科書 38光村 国語10[9] 小学校国語科用

光村図書

この　本で　がくしゅうする　みなさんへ

この　本では、つぎの　しるしが　つかわれて　います。

はなしたり　きいたり　しましょう。

かきましょう。

よみましょう。

ことばの　がくしゅうを　しましょう。

たいせつな　ことです。おぼえたり、たしかめたり　しましょう。

こくごの　がくしゅうで　よく　つかわれる　ことばです。

がくしゅうを　する　ときに　気を　つける　ことなどを　かいて　います。

きいて、がくしゅうする　ところです。

がくしゅうを　する　ときに　見ると　よい　ページを　かいて　います。

文字や　ことばの　しるし

○あたらしく　がくしゅうする　かん字。

●よみかたが　あたらしい　かん字。

▲あたらしく　がくしゅうする　かたかな。

この　しるしが　ある　ところには、がくしゅうの　たすけとなる　しりょうが　あります。よみとる　ときには、かならず、先生や　おうちの　かたと　いっしょに　おこないましょう。

こくご 一下

ともだち

ともだち、ともだち、
だれでも　ともだち。
いいな、いいな。
なんでも　できて、
なんでも　やって、
いい　きもち。
みんなで　そら　みて、
ヤッホー。

もくじ

おもいうかべながら　よもう　よむ
くじらぐも　なかがわ りえこ……4

しらせたいな、見せたいな　かく……17
まちがいを　なおそう……21
ことばを　たのしもう……22
かん字の　はなし……24

せつめいする　文しょうを　よもう　よむ
じどう車くらべ……28

じどう車ずかんを　つくろう　かく……33
かたかなを　かこう……36

ともだちの　こと、しらせよう……38
はなす・きく　かく

本は　ともだち
むかしばなしを　よもう……42
おかゆの　おなべ　さいとう ひろし……44
ものの　名まえ……56
わらしべちょうじゃ　はちかい みみ……62
日づけと　よう日……64

てがみで　しらせよう（かく）……66

つづけよう❸

こえに　出して　よもう……68
かたつむりの　ゆめ／はちみつの　ゆめ　くどう　なおこ
ききたいな、ともだちの　はなし……70
たのしいな、ことばあそび……72

すきな　ところを　見つけよう（よむ）
たぬきの　糸車（きしなみ）……74
かたかなの　かたち……86
ことばを　見つけよう……88

くらべて　よもう（よむ）
どうぶつの　赤ちゃん　ますい　みつこ……92

これは、なんでしょう（はなす・きく）……102

よんで　かんじた　ことを　はなそう（よむ）
ずうっと、ずっと、大すきだよ……106
ハンス＝ウイルヘルム　さく　ひさやま　たいちやく

にて　いる　かん字……118

いい　こと　いっぱい、一年生（かく）……120

ふろく

この本、よもう……124
わらしべちょうじゃ……126
ひらがなと　かたかな……130
これまでに　ならった　かん字……133
この　本で　ならう　かん字……134
ひょうしょうじょう……136

よむ

おもいうかべながら　よもう

くじらぐも

なかがわ　りえこ　さく
かきもと　こうぞう　え

四じかんめの　ことです。
一ねんニくみの　子どもたちが
たいそうを　して　いると、空に、
大きな　くじらが　あらわれました。
まっしろい　くもの　くじらです。

5

「一、二、三、四」。
くじらも、たいそうを　はじめました。
のびたり　ちぢんだり　して、
しんこきゅうも　しました。
みんなが　かけあしで
うんどうじょうを　まわると、
くもの　くじらも、空を　まわりました。
せんせいが　ふえを　ふいて、
とまれの　あいずを　すると、
くじらも　とまりました。

子ども(こ)たち。
空(そら)。

「まわれ、みぎ。」
せんせいが　ごうれいを
かけると、くじらも、空で
まわれみぎを　しました。
「あの　くじらは、きっと
がっこうが　すきなんだね。」
みんなは、大きな　こえで、
「おうい。」
と　よびました。
「おうい。」

と、くじらも
こたえました。
「ここへ　おいでよう」。
みんなが　さそうと、
「ここへ　おいでよう」。
と、くじらも　さそいました。
「よし　きた。くもの
くじらに　とびのろう」。
男の子も、女の子も、
はりきりました。

男の子（おとこ）。
女の子（おんな）。

みんなは、手を　つないで、まるい　わに　なると、
「天まで　とどけ、一、二、三。」
と　ジャンプしました。でも、とんだのは、やっと
三十センチぐらいです。
「もっと　たかく。もっと　たかく。」
と、くじらが　おうえんしました。
「天まで　とどけ、一、二、三。」
こんどは、五十センチぐらい　とべました。
「もっと　たかく。もっと　たかく。」
と、くじらが　おうえんしました。

○手て　○天てん　▲センチ

「天まで　とどけ、
一、二、三」。
その　ときです。
いきなり、かぜが、みんなを
空へ　ふきとばしました。
そして、あっと　いう　まに、
せんせいと　子どもたちは、
手を　つないだ　まま、くもの
くじらに　のって　いました。

「さあ、およぐぞ。」
くじらは、青い　青い
空の　なかを、
げんき　いっぱい
すすんで　いきました。
うみの　ほうへ、
むらの　ほうへ、
まちの　ほうへ。

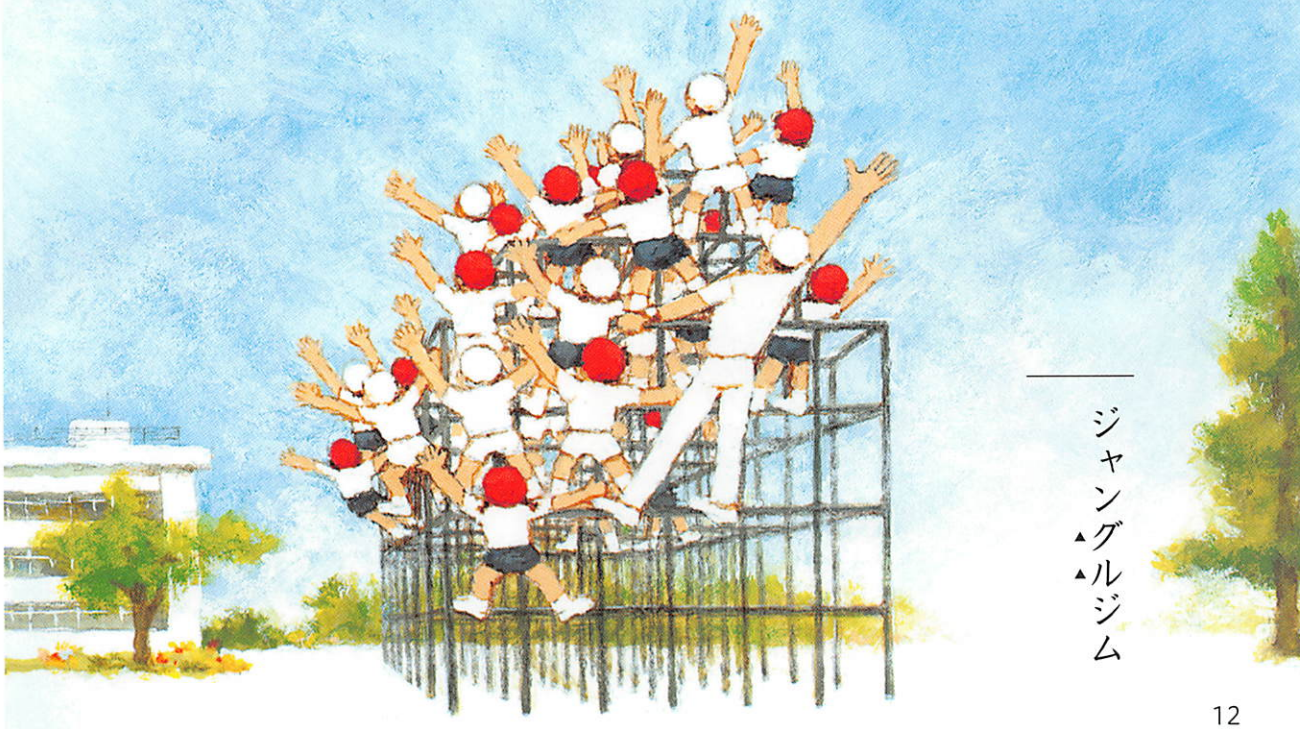
青（あお）い。

5

みんなは、うたを
うたいました。
空は、どこまでも
どこまでも
つづきます。

5

「おや、もう　おひるだ。」
せんせいが　うでどけいを
みて、おどろくと、
「では、かえろう。」
と、くじらは、まわれみぎを
しました。
　しばらく　いくと、がっこうの
やねが、みえて　きました。
くじらぐもは、ジャングルジムの
うえに、みんなを　おろしました。



ジャングルジム

「さようなら。
みんなが　手を　ふった
とき、四じかんめの
おわりの　チャイムが
なりだしました。
「さようなら。」
くもの　くじらは、また、
げんき　よく、
青い　空の　なかへ
かえって　いきました。

10　5

▲チャイム

がくしゅう

おもいうかべながら　よもう

▼「くじらぐも」を、こえに　だして　よみましょう。

「いいな。」「すきだな。」と　おもった　ところは　どこですか。

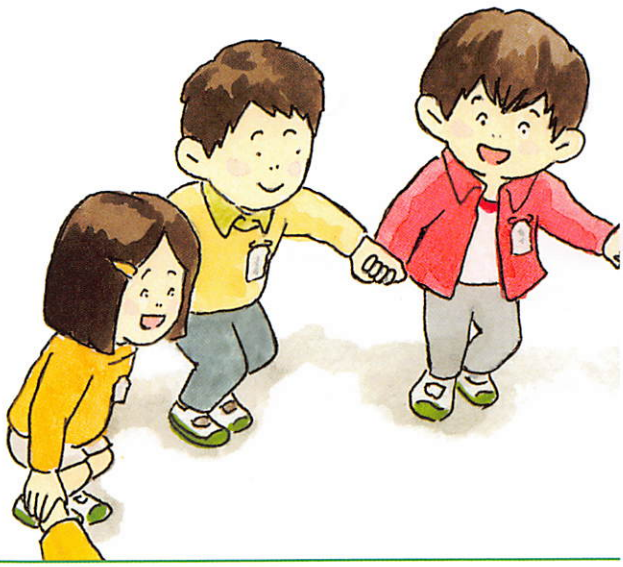
▼かぎ（「　」）の　ところは、どのように　よみますか。

子どもと　くじらぐもの　ようすを　おもいうかべましょう。

▼一ねん二くみの　みんなは、くもの　うえで、
どんな　ことを　はなしたでしょう。

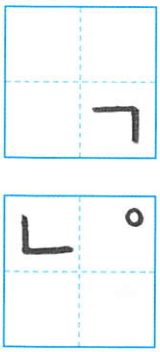
たいせつ

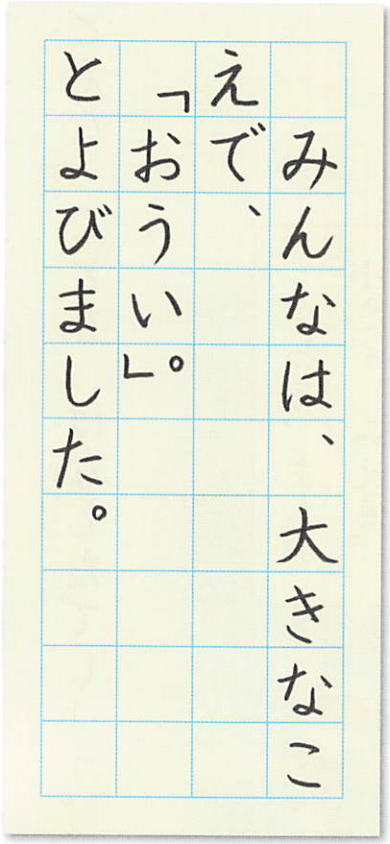
おはなしに　でて　くる
ひとが、した　ことや
いった　ことを
おもいうかべながら、
よみましょう。



ことば

▼はなした　ことばは、かぎ（「　」）を　つかって
かきます。かぎを　つかって、ノートに　かきましょう。





5

子 子子子　　子どもたち

空 空空空空空空空　　空

男 男男男男男男　　男の子

女 女女女　　女の子

手 手手手手　　手

天 天天天天　　天

青 青青青青青青青　　青い

▲ノート▲

かく　くわしく　かこう

しらせたいな、見せたいな

学校に　いる　いきものや、
学校で　見つけた　ものを、
いえの　ひとに
しらせましょう。
よむ　ひとに、どんな
ものが　わかるように、
よく　見て　かきましょう。

学校の　なかにわで
見つけた　虫の
ことを　しらせよう。

せいかつの　じかんに、
きれいな　おちばを
ひろったよ。おちばの
ことを　しらせようかな。

○見せる　○学校　○虫

1 しらせたい　ものの　えと、見つけた　ことを　かきましょう。

- いろ
- かたち
- 大きさ
- さわった　かんじ
- うごき

2 見つけた　ことを、文しょうに　かきましょう。

モルモットのもこ

むらた　こうき

もこのけは、しろとちゃいろとくろです。さわると、ふわふわしていて、とてもやわらかいです。

めは、まっくろです。まるくてかわいいです。

はなのまわりには、ながいひげがはえています。

えさをやると、くちをもぐもぐうごかしてたべます。

▲モルモット

文しょう。

3

こえに　だして　よみかえしましょう。

まちがいが　ないか　たしかめたら、いえの

ひとに　よんで　もらいましょう。

たいせつ

文しょうを　かいたら、たしかめましょう。

- 文の　おわりには、まる（。）が　ついて　いますか。
- てん（、）を　つけた　ほうが　よみやすい　ところは　ありませんか。
- 「は」「を」「へ」を　正しく　つかって　いますか。

見 見 見 見 見 見 見　見せる

学 学 学 学 学 学 学 学 学（学）　学校（学）

校 校 校 校 校 校 校 校 校　学校

虫 虫 虫 虫 虫 虫 虫　虫

文 文 文 文　文しょう

正 正 正 正 正 正 正　正しい

正しい。

ことば

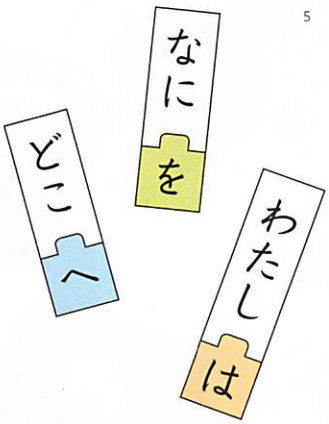
まちがいを　なおそう

字の　つかいかたで、まちがって　いる　ところを　なおしましょう。

きのう、あきの　ものお　見つけに、こう　えんえ　いきました。

わたしわ、大きな　おちばお　見つけました。あかくて、わたしの　手と　おなじ　くらいの　大きさでした。

どんぐりも、たくさん　ありました。いろわ　ちゃいろです。二十こ　ひろいました。



字　字字字字字字
字じ

○字じ

ことば

ことばを　たのしもう

ぞうさんの　ぼうし

ざじずぜぞうさん
ざくろの　えだに
がぎぐげごつんと
ぶつかって
だぢづでどしんと
でんぐりがえり

きっときってかってきて
きっときってかってはってきて

（たにかわしゅんたろう）

ばびぶべぼうし
ぱぴぷぺぽんと
ふっとんだ

（なかがわりえこ）

はやくちことば

なまむぎ　なまごめ　なまたまご

あおまきがみ
あかまきがみ
きまきがみ

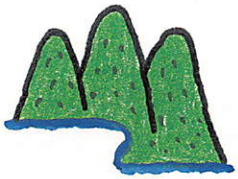
かえる　ひょこひょこ
三（み）ひょこひょこ
あわせて　ひょこひょこ
六（む）ひょこひょこ

5

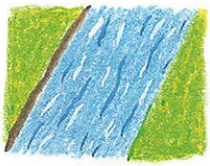
ことば

かん字の　はなし

かん字は、はじめは、かんたんな
えのような　ものでした。
「やま」の　すがたから、「山」と
いう　かん字が　できました。
「みず」の　ながれる　ようすから、
「水」と　いう　かん字が　できました。



山（やま）



水（みず）

空から「あめ」が ふる ようすから、「雨」と いう かん字ができました。

「うえ」に、ものが ある ことをしめす しるしから、「上」と いうかん字が できました。

「した」に、ものが ある ことをしめす しるしから、「下」と いうかん字が できました。

5

雨 あめ

上 うえ

下 した

▼かん字を　つかって、かきなおしましょう。

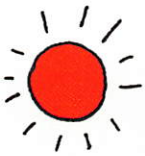
・ の に が　のぼる。

・ろうそくの を　けす。

・ んぼに　なえを　うえる。

・ に　小さな　さかなが　いる。

5


日ひ

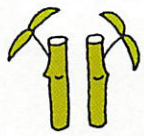
火ひ

田た

川かわ

・やぶに　 　が　ふる。

・空に　きれいな　 　が　でる。



竹たけ

月つき

山 山山山

水 水水水水

雨 雨雨雨雨雨雨雨

上 上上上

山やま　水みず　雨あめ　上うえ

下 下下下

日 日日日日

火 火火火火

田 田田田田田

下した　日ひ　火ひ　田た

川 川川川

竹 竹竹竹竹竹竹

月 月月月月

川かわ　竹たけ　月つき

よむ

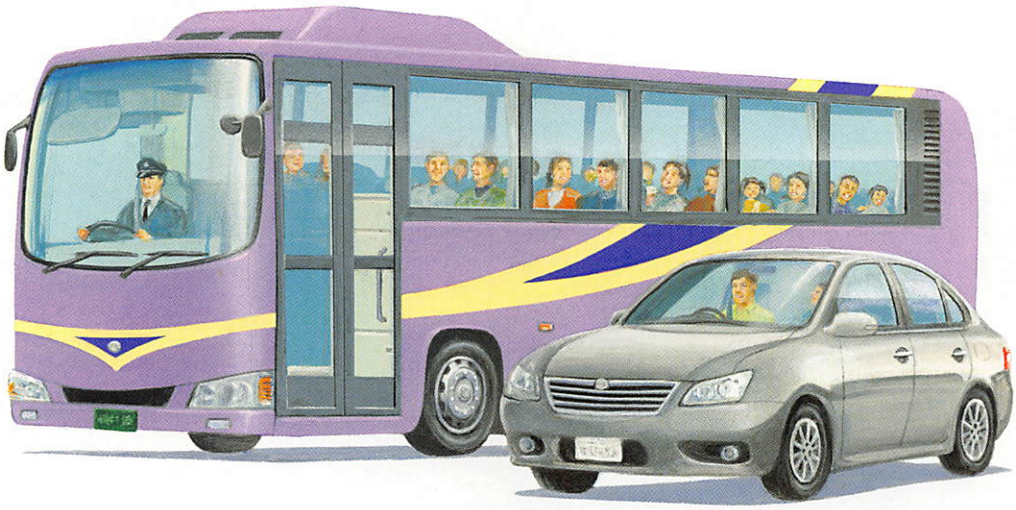
せつめいする　文しょうを　よもう

じどう車くらべ

いろいろな　じどう車が、
どうろを　はしって　います。
それぞれの　じどう車は、
どんな　しごとを　して　いますか。
その　ために、
どんな　つくりに　なって　いますか。

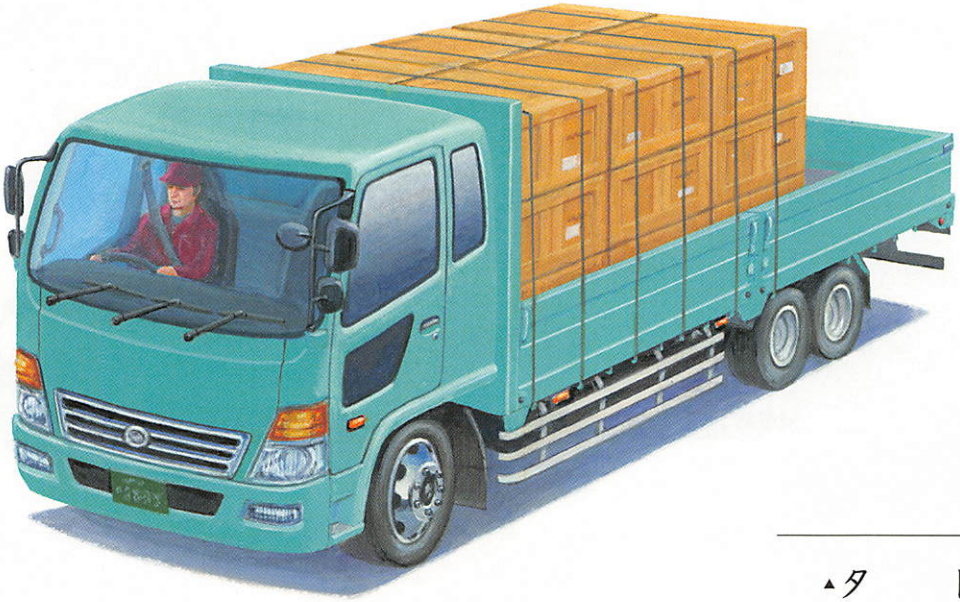
5

バスや　じょうよう車は、
人を　のせて　はこぶ
しごとを　して　います。
その　ために、
ざせきの　ところが、
ひろく　つくって　あります。
そとの　けしきが
よく　見えるように、
大きな　まどが
たくさん　あります。



じどう車
人
バス

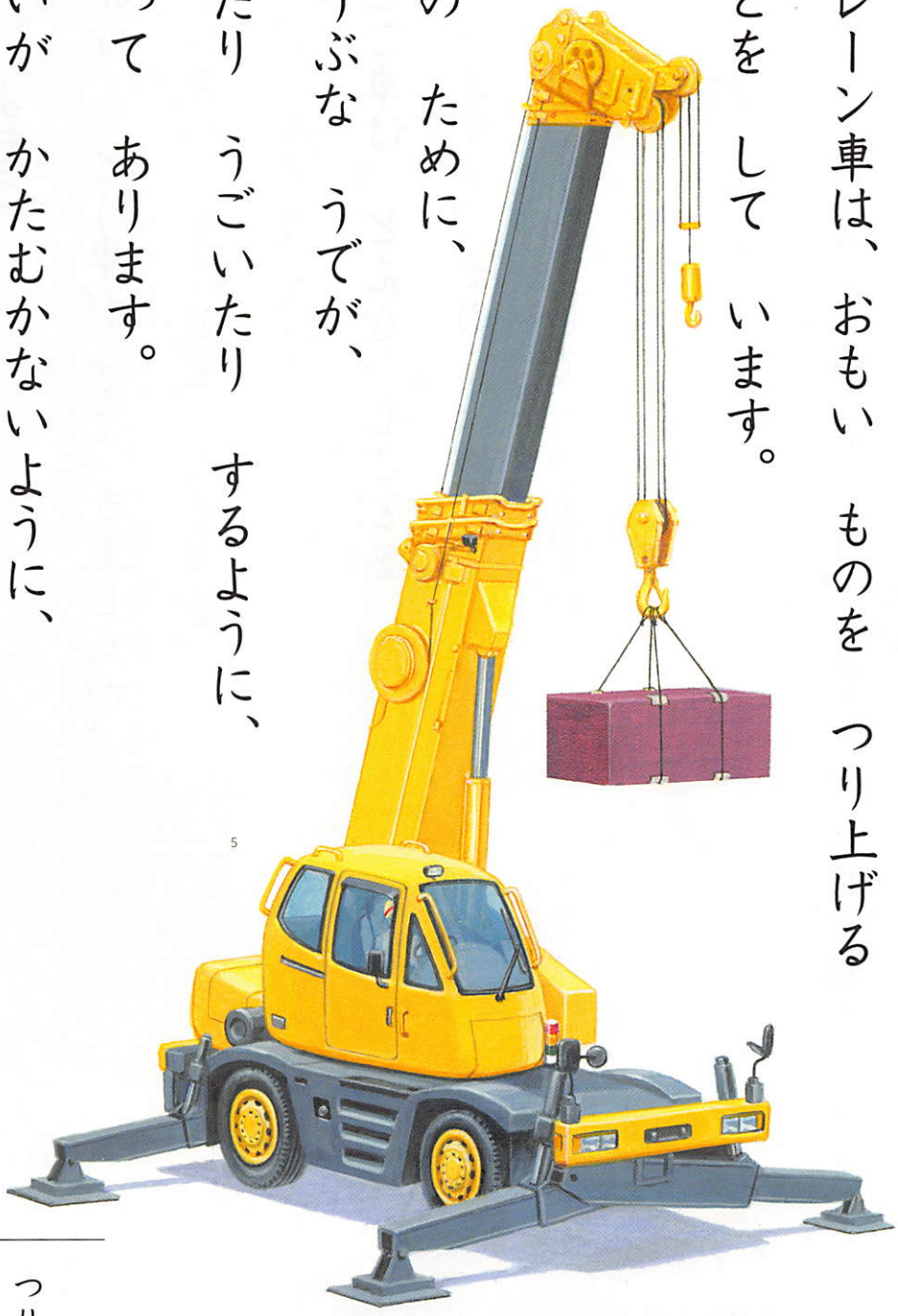
トラックは、
にもつを　はこぶ
しごとを　して　います。
　その　ために、
うんてんせきの　ほかは、
ひろい　にだいに
なって　います。
おもい　にもつを　のせる
トラックには、タイヤが
たくさん　ついて　います。



トラック▲
タイヤ▲

クレーン車は、おもい　ものを　つり上げる
しごとを　して　います。

その　ために、
じょうぶな　うでが、
のびたり　うごいたり　するように、
つくって　あります。
車たいが　かたむかないように、
しっかりした　あしが、ついて　います。



つり上げる
クレーン車

がくしゅう

せつめいする　文しょうを　よもう

▼どんな　じどう車が　でて　きましたか。

▼じどう車の　しごとと　つくりを、ノートに　かきましょう。

▼はしご車は、どんな　しごとを　して　いますか。その　ために、どんな　つくりを　して　いますか。

たいせつ

せつめいの　じゅんに　きを　つけて　よみましょう。

車 車 車 車 車 車 車 じどう車 人 人 人 人

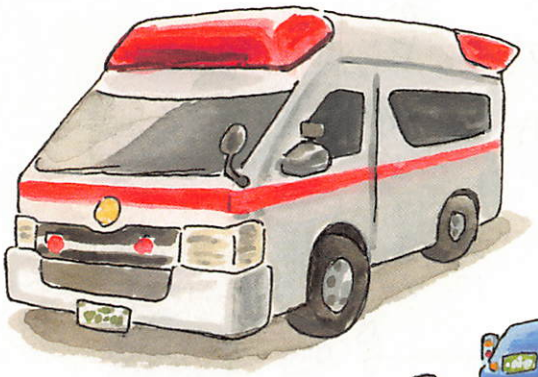
バスやじょうよう車	
しごと	そのために、 つくり
人をのせて はこぶ	

かく　せつめいする　文しょうを　かこう

じどう車ずかんを　つくろう

「じどう車くらべ」で
がくしゅうした　ことを
おもいだして、
じどう車ずかんを
つくりましょう。

わたしは、きゅうきゅう車にしようかな。



1 しごととつくりをたしかめましょう。

きゅうきゅう車 しごと	つくり
けがをした人や びょうきの人を はこぶ。 いそいではしる。	うごかせるベッド がある。 うんてんせきの うしろがひろい。 サイレン

5

2 しごととつくりのじゅんでかきましょう。

10

▲ベッド

きゅうきゅう車は、けがをした人や、びょうきの人を、びょういんへはこぶしごとをしています。

そのために、うんてんせきのうしろは、ベッドがいれられるようになっています。

しごと

つくり

3 みんなの カードを あつめて、ずかんに しましょう。

気 気気気気気気 気を つける

たいせつ

せつめいの じゅんに 気を つけると、わかりやすく かく ことが できます。

○気を つける

▲カード

ことば　かたかなを　かこう

のばす　おんや、小さく　かく　かたかなに
気を　つけて　かきましょう。

ヘ	ロ	キ	ー	シ
ル	ケ	ャ	ュ	ョ
メ	ッ	ン	ー	ベ
ッ	ト	プ	ス	ル
ト				カ
				ー

▲ソース
▲ケーキ
▲シートベルト
▲ホース
▲カヌー

▲ヘルメット
▲ロケット
▲ニュース
▲ショベルカー

はなす・きく

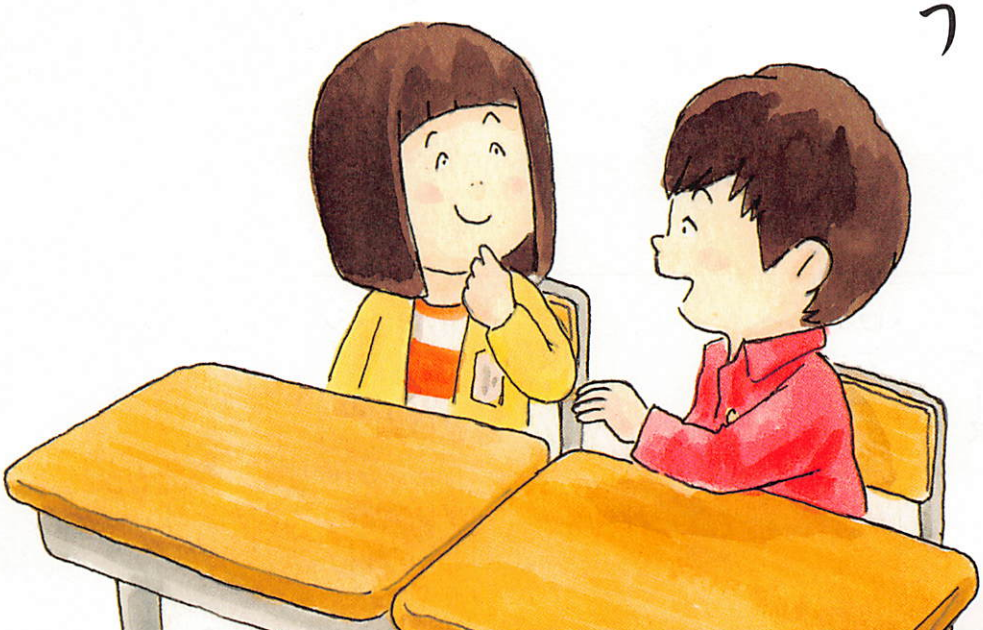
かく

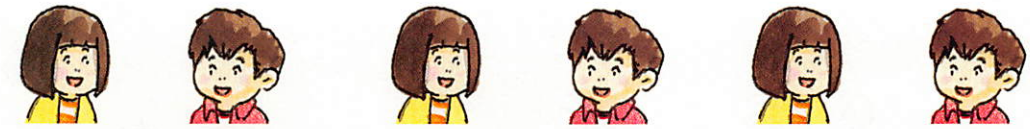
きいて　しらせよう

ともだちの　こと、しらせよう

ともだちの　ことを　もっと　しって、
みんなに　文しょうで　しらせましょう。

1 いま、いちばん　たのしい　ことを、
ともだちに　ききましょう。おもった
ことを　いったり、もっと　しりたい
ことを　きいたり　しましょう。





いま、いちばん　たのしい　ことは、なんですか。

なわとびを　する　ことです。まい日、れんしゅう　して　います。

どんな　とびかたが　できますか。

二じゅうとびが　とべます。この　あいだ、五かい　とべるように　なりました。

二じゅうとびが　とべるなんて　すごいですね。どう　やって　れんしゅうしましたか。

おねえさんに　おしえて　もらいました。

5

たいせつ

かんがえながら　ききましょう。

- おもしろい　ところ
- おどろいた　こと
- もっと　しりたい　こと

5

- まい日（にち）

2 ともだちに　きいた　ことを、文しょうにかきましょう。

りかさんとなわとび

きくち　たくや

りかさんが、いま、いちばんたのしいことは、なわとびをすることです。

りかさんは、まい日、なわとびをれんしゅうしています。おねえさんに、とびかたをおしえてもらって、二じゅうとびを、五かいもとべるようになったそうです。

ぼくも、りかさんの二じゅうとびを、見てみたいです。

3 かいた　文しょうを　よみあいましょう。

りかさんが、なわとびを
がんばって　いるのが、
よく　わかるよ。

まい日、れんしゅう
して　いると　きいて、
おどろいたんだ。

たいせつ

ともだちの　文しょうを　よんで、おもった　ことや
わかった　ことを　つたえましょう。

本はともだち

むかしばなしを　よもう

としょかんで、むかしばなしの　本が　おいて　ある　ばしょを、さがして　みましょう。しって　いる　おはなしや、よみたい　おはなしは　ありますか。

1 がいこくの　むかしばなしを　よんで　みましょう。

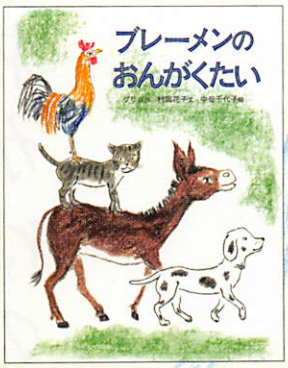
としょかんで　見つけた　本や、つぎの　ような　おはなしを　よんでも　いいですね。

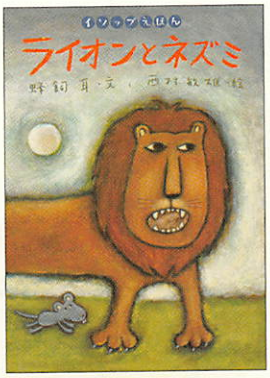
5

○本（ほん）

2

「おかゆの　おなべ」を　よんで、すきな　ところを　見つけましょう。





おかゆの　おなべ

グリムどうわ

さいとう ひろし 文
たかばたけ じゅんぇ

まずしいけれども、こころの
やさしい　女の子が　いました。
女の子は　おかあさんと　ふたりで
くらして　いましたが、うちには
たべる　ものが　なにも　ありませんでした。

ある　とき、女の子が、森に　たべものを　さがしに
いくと、むこうから　おばあさんが　やって　きました。
「こんな　ところで、なにを　して　いるんだね。」
おばあさんに　たずねられ、
女の子は　はずかしそうに　こたえました。
「のいちごを　さがして　いるの。
おかあさんと　いっしょに　たべようと　おもって。」
「そうかい、そうかい。おまえ、おなかが
へって　いるんだね。

10　5

○森（もり）

それなら、これを　もって　おかえり。
おなかが　すいたら、
『なべさん、なべさん。にて　おくれ。』
と　いえば、おかゆが
どんどん　出て　くるからね。
とめる　ときは、
『なべさん、なべさん。とめとくれ。』
って、いえば　いい。
そう　すりゃあ、おかゆが
出なく　なるからね。」

『』（二じゅうかぎ）
「」の　中で、「」を　つかいたい　ときに　つかう。

おばあさんは　そう　いうと、
おなべを　一つ、女の子に　わたしました。

うちに　かえると、
女の子は　おなべに　むかって、
「なべさん、なべさん。にて　おくれ。」
と　いいました。
すると、いきなり　おなべが　ぐらぐら
にえだし、中から、うんじゃら　うんじゃら、
おかゆが　出て　きました。

○中（なか）　○出る（で）

これには、おかあさんも　大よろこびです。
ふたりとも、おなかが　いっぱいに　なると、
女の子は　おなべに　むかって　いいました。
「なべさん、なべさん。とめとくれ。」
　すると、おなべは　ぴたりと　とまって、
おかゆは　出なく　なりました。
　こんな　ふうに　して、女の子と　おかあさんは、
たべものに　こまる　ことが　なく　なりました。
なにしろ、おなかが　すいたら　おなべに　むかって、
「なべさん、なべさん。にて　おくれ。」

と、いいさえ　すれば　いいのですから。

ある　日、女の子が　町の　そとに
出かけた　とき、おかあさんは
おなかが　すいたので、
おなべに　むかって　いいました。
「なべさん、なべさん。にて　おくれ。」
おなべは、ぐらぐらと　にえたち、
おかゆが　うんじゃら　うんじゃら、出て　きました。
おかあさんは　おかゆを　たくさん　たべ、

○町（まち）

おなかが　いっぱいに　なりました。

けれども、おかあさんは、おなべを

とめようと　して、はっと　しました。

いつも、おなべに　むかって　じゅもんを　いうのは、

女の子の　やくめだったので、おかあさんは、とめる

ときの　じゅもんを　よく　しらなかったのです。

そこで、おかあさんは、

「なべさん、なべさん。やめとくれ。」

と、いって　みました。

もちろん、なべは　とまりません。

つぎに、おかあさんは、
「なべさん、なべさん。おわりだよ。」
と、いって　みました。
やっぱり　なべは　とまりません。
その　ほか、おかあさんは、
おもいつく　ままに、いろいろ
じゅもんらしい　ことを　いって　みました。
けれども、どれも　まちがいだったので、
おなべは、おかゆを　にるのを　やめませんでした。
ぐらぐら、ぐらぐら。うんじゃら、うんじゃら。

おなべから、おかゆが　どんどん　出て　きます。
やがて、うち中　おかゆだらけに　なりました。
それでも、おなべは　とまりません。
ぐらぐら、ぐらぐら。うんじゃら、うんじゃら。
おかゆは、みちに　あふれ出ました。それでも、
おなべは　とまりません。
ぐらぐら、ぐらぐら。うんじゃら、うんじゃら。
とうとう、まわり中　おかゆだらけに　なり、
それどころか、町は　おかゆに　うまって
しまいました。

うち中（じゅう）

ようやく　町に　かえって　きた　女の子は、
あたり　いちめんの　おかゆを　見て、なにが
おこったか　わかりました。

「なべさん、なべさん。とめとくれ。」
女の子は　じゅもんの　ことばを
いいました。それで、やっと
おなべは　とまりました。

けれども、町に　入って
こようと　する　人びとは、
おかゆを　たべながら　あるかないと、
みちを　とおれなく　なったそうです。

入（はい）る。

3 よんだ　本を、カードに　かいて、ともだちに　しらせましょう。

■ おはなしカード

・本の　だいめい

・おはなしに　出てくる　人や　どうぶつ
・すきな　ところや、おもしろかった　ところ

・じぶんの　なまえ

おかゆの　おなべ

女の子とおかあさんと、おばあさんが出てきます。

町の中がおかゆだらけになるところが、おもしろいです。

なかはら　ともや

本 一 十 木 木 本

森 一 十 木 木 森 森 森 森 森 森 森 森 森

出 凵 凵 凵 凵 出

本（ほん）　森（もり）　出る（で）

中 中 口 口 中

町 町 口 口 田 田 町 町 町

入 入

中（なか）　町（まち）　入る（はい）

■ カードを　よんで　おもった　こと

わたしも、このおはなしがすきです。
いとう　りほ

ことば　ことばって、おもしろいな

ものの　名まえ

けんじさんは、夕がた、おねえさんと
町へ　かいものに　いきました。
はじめの　おみせには、
りんご、みかん、バナナなどが、
ならんで　います。ふたりは、
五百円で　りんごを　かいました。

5

名まえ（な）
夕がた（ゆう）
五百円（ひゃくえん）
バナナ

この　おみせは、なにやさん
でしょう。

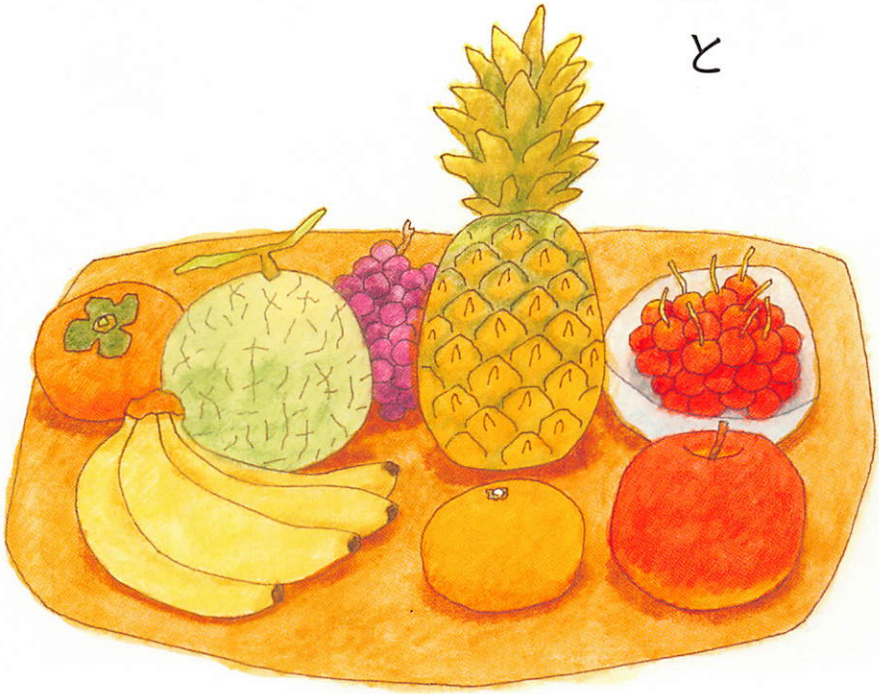
つぎに、さかなやさんに
いきました。あじ、さば、
たいなどが、ならんで　います。
けんじさんが、
「さかなを　ください。」
と　いって、千円さつを　出し
ました。おみせの　おじさんは、

10　　5

○千円さつ（せん）
●出す（だす）

「さかなじゃ　わからないよ。」
と、わらいながら　いいました。
おじさんは、なぜ「わからないよ。」と
いったのでしょう。

ものには、一つ一つに
名まえが　ついて　います。
りんご、みかん、バナナなどは、
一つ一つの　名まえです。
一つ一つの　ものを、まとめて



つけた　名まえも　あります。
りんご、みかん、バナナなどを
まとめて　つけた　名まえは、
くだものです。
　さかなも、まとめて　つけた
名まえです。一つ一つを　わけて
いう　ときには、
あじ、さば、たいなどと、
一つ一つの　名まえを　つかいます。

5

▼ものの　名まえを　あつめて、おみせやさんごっこを
しましょう。あなたは、なんの　おみせを　ひらきますか。
なにを　うりますか。

名 名 名 名 名 名 名 名 名まえ

夕 夕 夕 夕 夕がた

百 百 百 百 百 百 百 百 五百円

円 円 円 円 円 五百円

千 千 千 千 千円さつ

▲ピアノ

きいて たのしもう

せんせいに よんで もらって、
むかしばなしを たのしみましょう。

わらしべちょうじゃ

はちかい みみ 文
はせがわ よしふみ え

▼どんな　ところが　おもしろかったですか。
ともだちと　はなしましょう。

126ページ

ことば

日づけと　よう日

一月一日　お正月。
二月二日は　みんなで　こたつ。
三月三日は　ももの　花。
四月四日は　さくらの　花見。
五月五日は　こいのぼり。
六月六日は　わかばの　こみち。
七月七日は　天の川。

お日さま　大すき、
日よう日。
月が　出た　出た、
月よう日。
火の　ようじんだ、
火よう日は。
ホースで　水まき、
水よう日。

一月　お正月　三日　花　六日　七日　天の川
大すき　月よう日　火よう日　水よう日

八月八日は　なつ休み。
九月九日　虫の　こえ。
十月十日は　ハイキング。
ロープウエーにも　のりたいな。
十一月十一日　おちばひろい。
十二月二十日は、
はやく　こい　こい　お正月。

5

くりの　木　見つけた、
木よう日。
お金を　だいじに、
金よう日。
土あそび　する、
土よう日だ。

5

花　花花花花花花花　花
休　休休休休休休　なつ休み
金　金金金金金金金　お金
土　土土土　土あそび

- 八日　なつ休み。
- 木よう日　お金。
- 金よう日　土あそび。
- 土よう日

▲ハイキング
▲▲ロープウエー

かく　てがみを　かこう

てがみで　しらせよう

うれしかった　ことや
たのしかった　ことを、
てがみに　かいて
しらせましょう。
あなたは、だれに、
どんな　ことを
しらせたいですか。

5

たかしおじさんへ

ぼくの町に、ゆきが
ふりました。おじさんと
いっしょにゆきあそびを
したいな、とおもいました。

ひろとより

5

さかもとせんせい、おげんきですか。
わたしは、おんがくのじかんに、うたを
たくさんおぼえました。さかもとせんせいも、
しっているうただとおもいます。
こんど、ようちえんにあそびにいきます。
そのときにうたうので、きいてください。

ほんだ　ともみ

たいせつ

てがみを　かく　とき

- あいての　名まえと、じぶんの　名まえを　かきましょう。
- まちがいが　ないか　よみかえしましょう。

つづけよう ③

こえに　出して　よんだり、ともだちの　はなしを　きいたり、
ことばで　あそんだり　しましょう。

こえに　出して　よもう

かたつむりの　ゆめ

かたつむり　でんきち

あのね　ぼく
ゆめの　なかでは　ね
ひかりのように　はやく
はしるんだよ

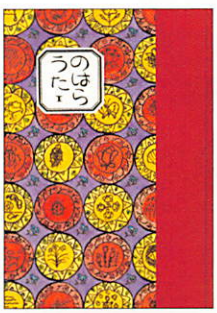
はちみつの　ゆめ

こぐま　きょうこ

とうみんしてる　とき
わたしは　しんしん　ゆめを　みる
はちみついりの　つぼ　だいて
あまい　おかしを
つくる　ゆめ

（「のはらうた」くどう　なおこ）

5



この　本、よもう

ききたいな、ともだちの　はなし

ともだちは、どんな　おはなしが
すきなのでしょうか。
くわしく　しりたい　ことを、
かんがえながら　ききましょう。

わたしが　すきな　おはなしは、
「どろんこ　ハリー」です。
ハリーと　いう　いぬが　出て　きます。
ハリーが　どろんこに　なって　いく
ところが　おもしろいです。

もっと　しりたい　ことを　ききましょう。

たのしいな、ことばあそび

一字　ふやして、ことばを　へんしんさせましょう。

トマト

まと

上に　と　を　ふやして

トマト

さくら

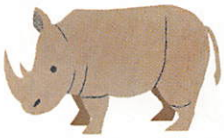
さら

あいだに　く　を　ふやして

さくら

さいふ

さい



下に　ふ　を　ふやして

さいふ

▼へんしんさせましょう。

たい

いか

たき

▼こんな　へんしんにも
ちょうせんして　みましょう。

●二字　ふやす。

たい

たいいく

こうたい

●「゛」を　つける。

まと

まど

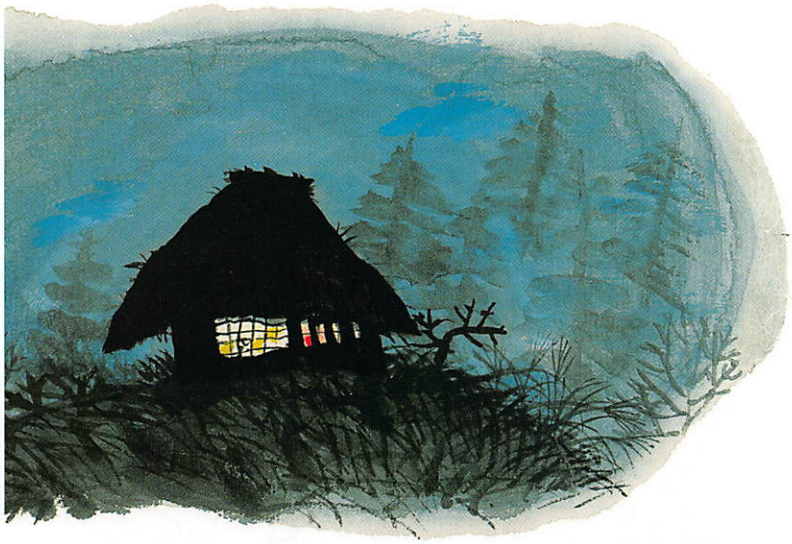
よむ

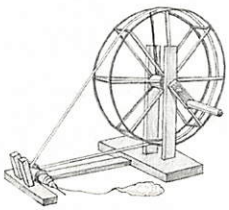
すきな　ところを　見つけよう

たぬきの　糸車

きし　なみ　さく
むらかみ　ゆたかぇ

むかし、ある　山おくに、
きこりの　ふうふが　すんで
いました。山おくの　一けんや
なので、まいばんのように
たぬきが　やって　きて、

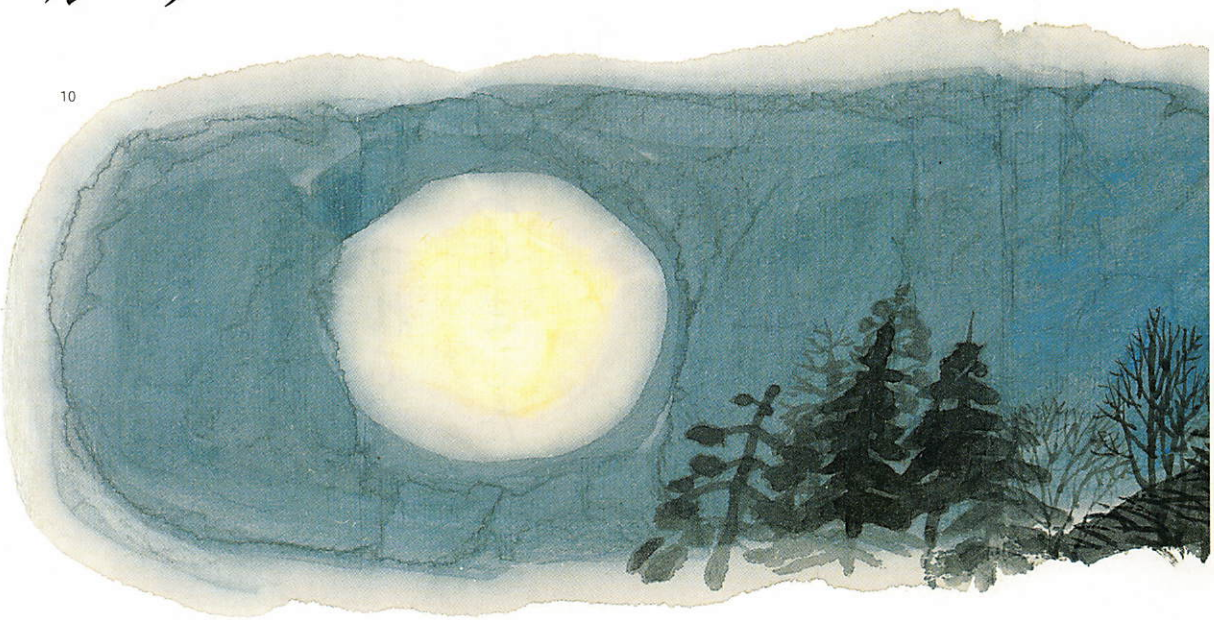




糸車

○糸車（いとぐるま）

いたずらを　しました。
そこで、きこりは
わなを　しかけました。
ある　月の　きれいな
ばんの　こと、
おかみさんは、糸車を
まわして、糸を　つむいで
いました。
キーカラカラ　キーカラカラ
キークルクル　キークルクル



ふと　気が　つくと、やぶれしょうじの　あなから、
二つの　くりくりした　目玉が、こちらを
のぞいて　いました。
糸車が　キークルクルと　まわるに　つれて、
二つの　目玉も、くるりくるりと　まわりました。
そして、月の　あかるい　しょうじに、
糸車を　まわす　まねを　する　たぬきの　かげが
うつりました。
おかみさんは、おもわず　ふき出しそうに
なりましたが、だまって　糸車を

10　5

○目玉（めだま）

まわして いました。
それからと いう もの、
たぬきは、まいばん まいばん
やって きて、糸車を まわす
まねを くりかえしました。
「いたずらもんだが、
かわいいな。」
ある ばん、こやの うらで、
キャーッと いう
さけびごえが しました。

おかみさんが　こわごわ　いって
みると、いつもの　たぬきが、
わなに　かかって　いました。
「かわいそうに。わなになんか
かかるんじゃ　ないよ。
たぬきじるに　されて　しまうで。」
おかみさんは、そう　いって、
たぬきを　にがして　やりました。
やがて、山の　木の　はが
おちて、ふゆが　やって　きました。

ゆきが　ふりはじめると、
きこりの　ふうふは、村へ
下りて　いきました。
　はるに　なって、また、
きこりの　ふうふは、
山おくの　こやに
もどって　きました。
　とを　あけた　とき、
おかみさんは、あっと
おどろきました。

10　5

○村（むら）　•下（お）りる

いたの間に、白い　糸の　たばが、山のように
つんで　あったのです。そのうえ、ほこりだらけの
はずの　糸車には、まきかけた　糸まで
かかって　います。
「はあて、ふしぎな。どう　した　こっちゃ。」
おかみさんは、そう　おもいながら、土間で
ごはんを　たきはじめました。すると、
キーカラカラ　キーカラカラ
キークルクル　キークルクル
と、糸車の　まわる　音が、

10　5

○音　○白い

きこえて　きました。
びっくりして　ふりむくと、
いたどの　かげから、
ちゃいろの　しっぽが
ちらりと　見えました。
　そっと　のぞくと、
いつかの　たぬきが、
じょうずな　手つきで、
糸を　つむいで
いるのでした。

たぬきは、つむぎおわると、こんどは、いつも
おかみさんが　して　いた　とおりに、
たばねて　わきに　つみかさねました。
　たぬきは、ふいに、おかみさんが　のぞいて
いるのに　気が　つきました。
　たぬきは、ぴょこんと　そとに　とび下りました。
そして、うれしくて　たまらないと　いうように、
ぴょんぴょこ　おどりながら　かえって
いきましたとさ。

がくしゅう

すきな　ところを　見つけよう

▼たぬきは、どんな　ことを　しましたか。おかみさんは、たぬきの　した　ことを　見て、どう　おもったでしょうか。

たいせつ

おはなしには、いくつかの　まとまりが　あります。

▼すきな　ところを、こえに　出して　よみましょう。

- すきな　ところを　えらんで、文を　うつします。
- 文に　あうように、えを　かきます。
- こえの　大きさや、よむ　はやさを　かんがえて、れんしゅうします。

えを　見せながら　よみ、みんなで　たのしみましょう。

糸　糸車（いと）
目　目玉（めだま）（玉（たま））
玉
村　村（むら）
白　白い（しろい）
音　音（おと）

ことば

かたかなの　かたち

かたちの　にて　いる　字が　あります。

・かたかなと　ひらがな

カ　キ　セ　モ

か　き　せ　も

・かたかなと　かたかな

ソ　ア

ソース　アイロン

ン　マ

パン　マラソン

▼ふろくの、「ひらがなと　かたかな」を　見て、にて　いる　かたちの　字を　さがしましょう。

130ページ

●まちがえやすい
かたかな

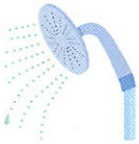
シ　ツ

シ
ー
ツ

▼かたちに　気を　つけて　かきましょう。

ネ
ク
タ
イ

シ
ャ
ワ
ー



マ
フ
ラ
ー

オ
ル
ガ
ン

テ
ー
ブ
ル

ミ
シ
ン

コ
ー
ヒ
ー

ヲ

▲ネクタイ　▲シャワー　▲マフラー　▲オルガン　▲テーブル　▲ミシン　▲コーヒー　▲ヲ

ことば　ことばを　見つけよう

かばんの　中には、かばが　いる。

はちまきの　中には、□が　いる。

ぶたいの　中には、□が　いる。

いわしの　中には、□が　いる。

みかんの　中には、かんが　ある。

すいとうの　中には、□が　ある。

パンダの　中には、□が　ある。

はたけの　中には、□が　ある。

- かばが　いる。
- かんが　ある。

5

グループで、ことばあそびを　たのしみましょう。

1 ことばが　かくれて　いる　文を　つくります。

（　　）の　中には、□　が　いる。

（　　）の　中には、□　が　ある。

2 つくった　文を、みんなで
こえに　出して、たのしみます。

よむ　くらべて　よもう

どうぶつの　赤ちゃん

ますい　みつこ　文
つきもと　かよみ　え

どうぶつの　赤ちゃんは、生まれたばかりの
ときは、どんな　ようすを　して　いるのでしょう。
そして、どのように　して、大きく　なって
いくのでしょう。

5

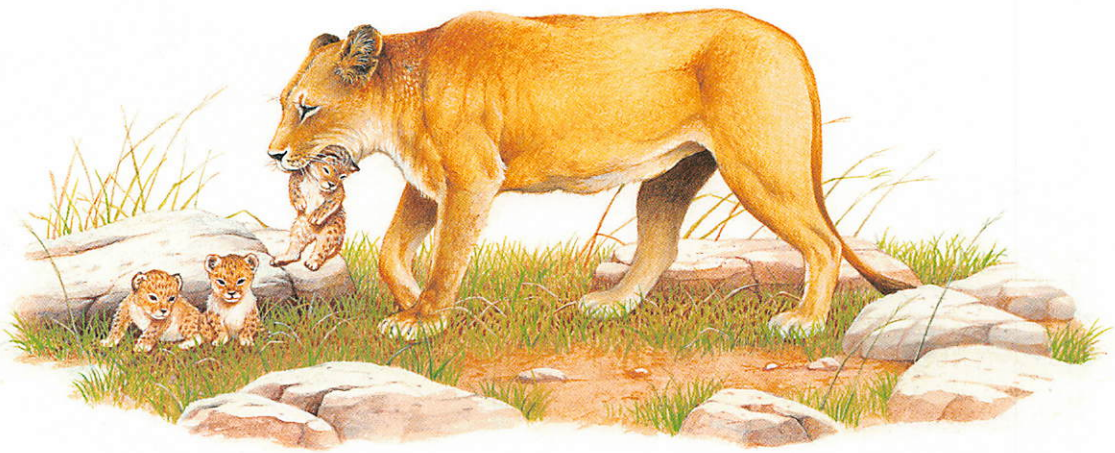
○赤ちゃん（あか）
○生まれる（う）

ライオンの　赤ちゃんは、
生まれた　ときは、子ねこぐらいの
大きさです。目や　耳は、
とじた　ままです。ライオンは、
どうぶつの　王さまと　いわれます。
けれども、赤ちゃんは、
よわよわしくて、おかあさんに
あまり　にて　いません。
ライオンの　赤ちゃんは、じぶん
では　あるく　ことが　できません。

5　10

○耳（みみ）
○王（おう）さま

よそへ　いく　ときは、おかあさんに、
口に　くわえて　はこんで　もらうのです。
　ライオンの　赤ちゃんは、生まれて
二か月ぐらいは、おちちだけ　のんで
いますが、やがて、おかあさんの　とった
えものを　たべはじめます。一年ぐらい
たつと、おかあさんや　なかまが
するのを　見て、えものの　とりかたを
おぼえます。そして、じぶんで
つかまえて　たべるように　なります。



しまうまの　赤ちゃんは、
生まれた　ときに、
もう　やぎぐらいの
大きさが　あります。
目は　あいて　いて、耳も
ぴんと　立って　います。
しまの　もようも　ついて
いて、おかあさんに
そっくりです。

10　5

○口（くち）　一年（ねん）

○立（た）っ

しまうまの　赤ちゃんは、
生まれて　三十ぷんも
たたない　うちに、
じぶんで　立ち上がります。
そして、つぎの　日には、
はしるように　なります。
だから、つよい　どうぶつに
おそわれても、おかあさんや
なかまと　いっしょに　にげる
ことが　できるのです。

しまうまの　赤ちゃんが、
おかあさんの　おちちだけ
のんで　いるのは、たった
七日ぐらいの　あいだです。
その　あとは、おちちも
のみますが、じぶんで
草も　たべるように
なります。

5

○草（くさ）

がくしゅう

くらべて　よもう

▼「どうぶつの　赤ちゃん」を　よんで、はじめて　しった　ことや、ふしぎだなあと　おもった　ことを　はなしましょう。

▼ライオンの　赤ちゃんと　しまうまの　赤ちゃんを　くらべましょう。どんな　ところが　ちがいますか。大きく　なって　いく　ようすも、くらべましょう。

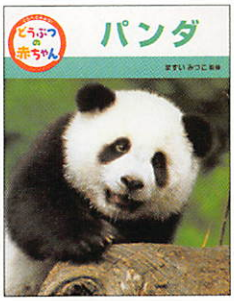
生まれたばかりのようす

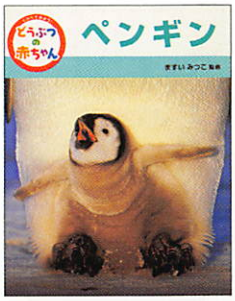
ライオンの赤ちゃんは、生まれたときは、子ねこぐらいの大きさです。

しまうまの赤ちゃんは、生まれたときに、もうやぎぐらいの大きさがあります。

5

▼ほかの どうぶつの 赤ちゃんの 本を よんで、
わかった ことを ともだちに しらせましょう。





カンガルーの 赤ちゃんに ついて、しらせても いいですね。

100ページ

たいせつ

くらべて よむと、なにが
ちがうのかが よく わかります。

赤 赤赤赤赤赤赤赤 赤ちゃん
生 生生生生生 生まれる
耳 耳耳耳耳耳耳耳 耳
王 王王王王 王さま
口 口口口 口
年 年年年年年 一年
立 立立立立立 立つ
草 草草草草草草草草 草

もっと　よもう

カンガルーの　赤ちゃんは、
生まれた　ときは、たいへん　小さくて、
一円玉ぐらいの　おもさです。目も
耳も、どこに　あるのか、まだ　よく
わかりません。はっきり　わかるのは、
口と　まえあしだけです。
　それでも、この　赤ちゃんは、
小さな　まえあしで、おかあさんの
おなかに　はい上がって　いきます。
そして、じぶんの　ちからで、

おなかの　ふくろに　入ります。
カンガルーの　赤ちゃんは、小さくても、
おかあさんの　おなかの　ふくろに
まもられて　あんぜんなのです。
　カンガルーの　赤ちゃんは、
ふくろの　中で、おかあさんの
おちちを　のんで　大きく　なります。
そうして、六か月ほど　たつと、
ふくろの　そとに　出て、じぶんで
草も　たべるように　なります。

（ますい　みつこ　文　つきもと　かよみ　え）

はなす・きく

ふたりで　かんがえよう

これは、なんでしょう

ふたりで　そうだんして、
もんだいを　かんがえましょう。
みんなで、
もんだいを　出しあって
たのしみましょう。

1

学校に　ある　ものから、
もんだいの　こたえに
する　ものを
きめましょう。

2

もんだいに　する　もののかたちや、はたらきなどを
ノートに　かきましょう。

5

とけい

・まるい。
・すうじがかいてある。
・いつもうごいている。
・じかんがわかる。

5

3 かいた　ことを　どの　じゅんばんで　いうかを、はなしあいましょう。

ともだちの　はなしを　たしかめたり、わからない　ことを　きいたり　しましょう。

○先（さき）
▲ボール

4

そうだんして　きめた　じゅんばんに、
もんだいを　出しましょう。

先
先先先先先先
先（さき）

よむ

よんで　かんじた　ことを　はなそう

ずうっと、ずっと、大すきだよ

ハンス＝ウイルヘルム　さく・え

ひさやま　たいち　やく

エルフの　ことを　はなします。
エルフは、せかいで　いちばん
すばらしい　犬です。

ぼくたちは、いっしょに　大きく　なった。
でも、エルフの　ほうが、ずっと　早く、
大きく　なったよ。
　ぼくは、エルフの　あったかい
おなかを、いつも　まくらに　するのが
すきだった。そして、ぼくらは、
いっしょに　ゆめを　見た。
　にいさんや　いもうとも、エルフの
ことが　大すきだった。でも、エルフは、
ぼくの　犬だったんだ。

○犬（いぬ）　○早い（はやい）

エルフと　ぼくは、まい日　いっしょに
あそんだ。
エルフは、りすを　おいかけるのが　すきで、
ママの　花だんを　ほりかえすのが　すきだった。
ときどき、エルフが　わるさを　すると、
うちの　かぞくは、すごく　おこった。
でも、エルフを　しかって　いながら、
みんなは、エルフの　こと、大すきだった。
すきなら　すきと、いって　やれば

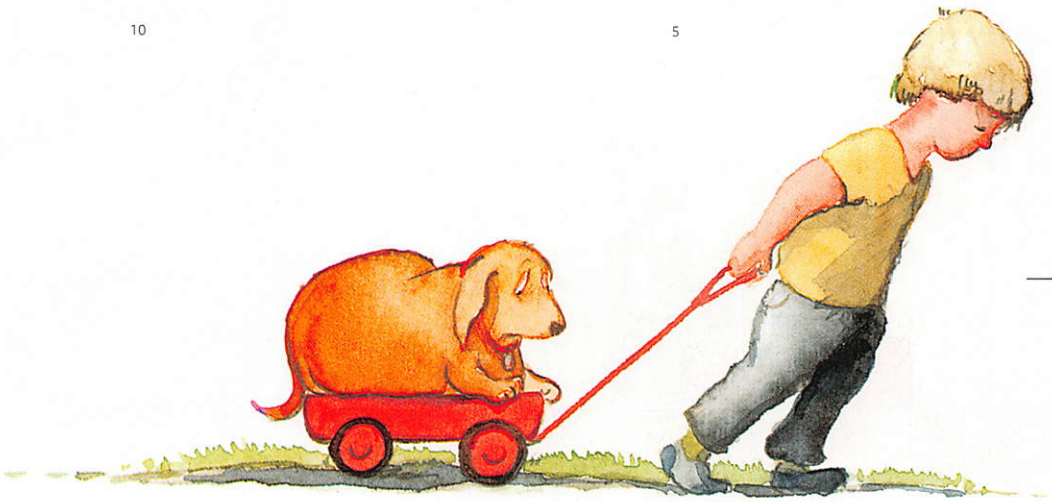
•花だん

よかったのに、だれも、いって　やらなかった。
いわなくっても、わかると　おもって　いたんだね。

いつしか、ときが　たって　いき、
ぼくの　せが、ぐんぐん　のびる
あいだに、エルフは、どんどん
ふとって　いった。
エルフは、年を　とって、
ねて　いる　ことが　おおく　なり、
さんぽを　いやがるように　なった。

•年（とし）

ぼくは、とても　しんぱいした。
ぼくたちは、エルフを　じゅういさんに
つれて　いった。でも、じゅういさんにも、
できる　ことは　なにも　なかった。
「エルフは、年を　とったんだよ。」
じゅういさんは、そう　いった。
　まもなく、エルフは、かいだんも　上れなく
なった。でも、エルフは、ぼくの　へやで
ねなくちゃ　いけないんだ。
ぼくは、エルフに　やわらかい　まくらを



• 上る（のぼる）

やって、ねる　まえには、かならず、
「エルフ、ずうっと、大すきだよ。」
って、いって　やった。エルフは、
きっと　わかって　くれたよね。

ある　あさ、
目を　さますと、
エルフが、しんで　いた。
よるの　あいだに
しんだんだ。

ぼくたちは、エルフを　にわに　うめた。
みんな　ないて、かたを　だきあった。
　にいさんや　いもうとも、
エルフが　すきだった。
でも、すきって　いって　やらなかった。
ぼくだって、かなしくて　たまらなかったけど、
いくらか　気もちが　らくだった。
だって、まいばん　エルフに、
「ずうっと、大すきだよ」。
って、いって　やって　いたからね。

となりの　子が、子犬を
くれると　いった。もらっても、
エルフは　気に　しないって
わかって　いたけど、ぼくは、
いらないって　いった。
　かわりに、ぼくが、
エルフの　バスケットを　あげた。
ぼくより、その　子の　ほうが、
バスケット　いるもんね。

いつか、ぼくも、ほかの
犬を　かうだろうし、子ねこや
きんぎょも　かうだろう。
なにを　かっても、まいばん、
きっと　いって　やるんだ。
「ずうっと、ずっと、大すきだよ。」
って。

がくしゅう

よんで　かんじた　ことを　はなそう

▼おはなしを　よんで、おもった　ことを　はなしましょう。

・「いいな。」「すきだな。」と　おもった　ところ

・「どうしてかな。」と、ふしぎに　おもった　ところ

▼エルフは、どんな　ふうに　かわって　いきましたか。たしかめましょう。

▼ぼくが、エルフの　ことが　大すきだと　わかる　ところに、せんを　ひきましょう。

▼ぼくは、なぜ、となりの　子に、バスケットを　あげたのでしょう。

あなただったら　どう　しますか。
ともだちと　はなしましょう。

わたしだったら、
バスケットを　あげないな。

どうして
あげないの。

たいせつ

かんじた　ことを　ともだちと　はなすと、
おはなしを　もっと　たのしめます。

がいこくごの　文しょうを、
にほんごの　文しょうに
なおす　ことを、やくすと
いいます。やくした　人は
やくしゃと　いいます。

犬　犬犬犬犬　犬（いぬ）

早　早早早早早　早（はや）い

ことば

にて いる かん字

にて いる かん字に
気を つけて、かきましょう。

・右足で 石を ける。

右
石

・人が 入って くる。

人
入

・学校で 文字を ならう。

学
字

・貝を 見つける。

貝
見

・村の おくに 林が ある。

村
林

かきじゅんにも　気を　つけましょう。

・右を　見て、左を　見る。

右　左

・土を　もり上げる。

土　上

貝
貝貝貝貝貝貝貝
貝（かい）

林
林林林林林林林林
林（はやし）

右
右右右右右
右足（みぎあし）

足
足足足足足足足

石
石石石石石
石（いし）

左
左左左左左
左（ひだり）

○貝（かい）　○林（はやし）　○右足（みぎあし）　○石（いし）　・文字（もじ）　○左（ひだり）

かく　おもい出して　かこう

いい　こと　いっぱい、一年生

もう　すぐ　二年生。
一年生に　なってから、
いい　ことが　いっぱい
ありましたね。
くわしく　おもい出して
かきましょう。

5

一年生（せい）

1

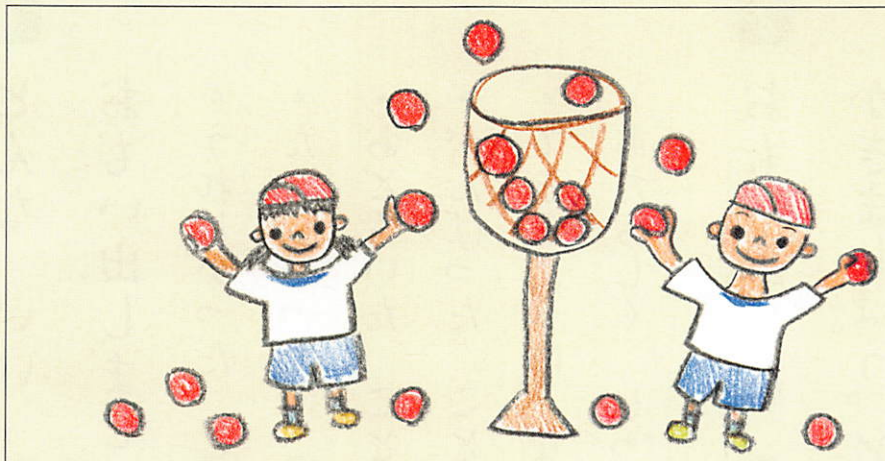
どんな　いい　ことが　あったかを、
おもい出しましょう。

- うれしかった　こと
- たのしかった　こと
- おどろいた　こと
- がんばった　こと
- できるように　なった　こと
- あたらしく　しった　こと

2

おもい出した　ことを、まとまりに　わけて
かきましょう。ともだちと　よみあって、わかりやすい
じゅんで　かいて　いるか、たしかめましょう。

○カ（ちから）



がんばった玉入れ

一年二くみ　おおた　ゆい

五月のうんどうかいで、玉入れをがんばりました。

おなじチームの二年生が、「かごのちかくにいってなげるといいよ。」と、おしえてくれました。やってみると、たくさん入りました。

らいねんは、わたしが、一年生におしえてあげようとおもいます。

だいめい

どんな　いいことが　あったか

くわしく　おもい出した　こと

- した　こと
- いった　こと
- いわれた　こと

おもった　こと

3 できあがった　文しょうを、みんなで　よみあいましょう。

たいせつ

わかりやすく　かく

- さいしょに、あった　ことを　みじかく　かきましょう。
- つぎに、くわしく　おもい出した　ことを　かきましょう。

5

玉入れ

力

力力

力（ちから）

この本、よもう

一年生の みなさんが、たのしく よめる 本です。よんだ 本には、□に しるしを つけましょう。

□ アランの歯は でっかいぞ こわーいぞ

ジャーヴィス さく
あおやま みなみ やく

ワニの アランは、でっかい はで、いつも みんなを こわがらせて います。

□ うまれたよ！ ダンゴムシ

みなごし ようせい しゃしん
こすぎ みのり こうせい・文

あっ、ダンゴムシの 赤ちゃんだ。よむと、きっと ダンゴムシを さがしたく なります。

□ たんたのたんけん

なかがわ りえこ さく
やまわき ゆりこ え

きょうは、たんたの たんじょう日。まどを あけると、いきなり ふうとうが まい こんできました。

□ イソギンチャクの ふしぎ

そやま いさむ しゃしん・文

ひみつが いっぱい ある、イソギンチャク。あなたは 見た ことが ありますか。

かずあそび ウラパン・オコサ

たにかわ　こういち

一、二。一、二。一は「ウラパン」、二は「オコサ」。こえに　出して、かぞえてみましょう。

へんてこもりに いこうよ

たかどの　ほうこ　さく・え

へんてこもりで　あそんでいると、へんてこな　なかまが　出て　きます。

ハリーと うたう おとなりさん

ジーン＝ジオン　文
マーガレット＝ブロイ＝グレアム　え
こみや　ゆう　やく

おとなりさんの　うたごえに　こまった、犬の　ハリー。どうにか　できるでしょうか。

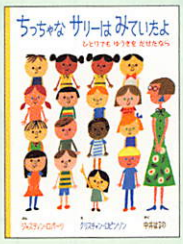
つりばしゆらゆら

もりやま　みやこ　さく
つちだ　よしはる　え

あいたいな、はしの　むこうの　おともだち。きつねの子は、つりばしを　わたれるでしょうか。

ちっちゃな サリーは みていたよ

ジャスティン＝ロバーツ　文
クリスチャン＝ロビンソン　え
なかい　はるの　やく



ゆうきを　出した　サリーの　ことばで、みんなが　かわります。

アリから　みると

くわはら　りゅういち　文
くりばやし　さとし　しゃしん

アリの　目には、まわりの虫たちが　どんな　ふうに見えて　いるのでしょう。

「きいて　たのしもう」（62・63ページ）でよんで
もらった　おはなしです。ほかに、どのような
たのしみかたが　あるでしょう。

わらしべちょうじゃ

はちかい　みみ　文

むかしむかし、あるところに、ひとりの男がいました。ある日、男はゆめの中でこんな声を聞きました。

「さいしょにさわったものを、手からはなさないようにしなさい。きっと、いいことがありますよ。」

男は目をさましました。ふしぎなゆめだったと思いながら、外へ出て　歩きだし

たとたん、うっかり、ころんでしまいました。おき上がろうとしたときです。男の手に、一本のわらしべがふれました。男はそれをつかみました。

わらしべをもったまま、歩いていくと、あぶがとんできました。ぶうん、ぶうん。いくらおいはらっても、またとんできます。男はあぶをつかまえると、わらしべにむすびつけました。そして、それをもったまま、歩きつづけました。

むこうのほうから、男の子とその母親がやって来ます。そばまで来ると、母親は、男にむかって、こうたのみました。

「子どもが、どうしても　あぶのついたわらしべを　ほしいと言うのです。すみませんが、このみかんと、こうかんしてくれませんか。」

「ええ、いいですよ。どうぞ。」

わらしべをわたすと、母親は、大きなみかんを　三つくれました。わらしべがみかんになるなんて、おれはうんがいいなあ、と思いながら、男は先へすすみました。

しばらく行くと、木のねもとに、女の人がすわりこんでいました。

「どうしたのですか。だいじょうぶですか。」

「ああ、のどがかわいて、少しも歩けないのです。水をおもちではないですか。」

「水はもっていませんけど、そうだ、ここ

に、みかんならあります。どうぞ」
女の人は、うなずくと、みかんをうけとりました。そして、かわをむいて、口に入れました。
「ありがとう。みかんのしるが、のどをうるおしてくれました。本当にたすかりました。おれいに、このぬのをさしあげます」。
女の人は、男に　きれいなぬのをくれました。ぬえばきものになる　ぬのです。
さらに歩いていくと、道ばたに　馬がたおれていました。馬のそばには、もちぬしが立っています。
「どうしたのですか」。

「馬がうごかなくなって、こまっています。しかたないので、ここにすててていこうかと　思っています」。
「それはかわいそうです。このきれいなぬのを　さしあげますから、わたしにその馬を　ゆずってください」。
馬のもちぬしは、うれしそうにぬのをうけとると、立ちさりました。男が　やさしくせわをすると、馬は元気をとりもどし、立ち上がりました。
男は馬にのって、先へすすみました。そのうちに、大きなやしきの前を　通りかかりました。
やしきの中から、その家のしゅじんが、

手をふりながら　出てきました。
「おうい、その馬をくれないか。今から、たびに出るので、馬がひつようなのだ。そうだ、わたしのかわりに、このやしきにすんでくれ。もし、わたしが、いつまでたっても　もどって来なかったら、やしきはあなたにさしあげよう。」
男はおどろきましたが、言われたとおり馬をわたしました。そして、そのまま、やしきでくらしました。
たびに出たしゅじんは、何年たっても帰ってきませんでした。やがて、やしきは、男のものになりました。
わらしべがみかんになり、みかんがぬのになり、ぬのが馬になり、馬がやしきになったのです。それで、人びとは、男のことを、わらしべちょうじゃと　よぶようになりました。

ひらがなと　かたかな

な	た	さ	か	あ
ナ	タ	サ	カ	ア
に	ち	し	き	い
ニ	チ	シ	キ	イ
ぬ	つ	す	く	う
ヌ	ツ	ス	ク	ウ
ね	て	せ	け	え
ネ	テ	セ	ケ	エ
の	と	そ	こ	お
ノ	ト	ソ	コ	オ

5

ん	わ	ら	や	ま	は
ン	ワ	ラ	ヤ	マ	ハ
	(い)	り	(い)	み	ひ
	(イ)	リ	(イ)	ミ	ヒ
	(う)	る	ゆ	む	ふ
	(ウ)	ル	ユ	ム	フ
	(え)	れ	(え)	め	へ
	(エ)	レ	(エ)	メ	ヘ
	を	ろ	よ	も	ほ
	ヲ	ロ	ヨ	モ	ホ

にて いる 字を、さがして みましょう。

5

が	ざ	だ	ば	ぱ
ガ	ザ	ダ	バ	パ
ぎ	じ	ぢ	び	ぴ
ギ	ジ	ヂ	ビ	ピ
ぐ	ず	づ	ぶ	ぷ
グ	ズ	ヅ	ブ	プ
げ	ぜ	で	べ	ぺ
ゲ	ゼ	デ	ベ	ペ
ご	ぞ	ど	ぼ	ぽ
ゴ	ゾ	ド	ボ	ポ

5

小さく　かく　かな

つ
ッ
や
ャ
ゆ
ュ
よ
ョ

きゃ	しゃ	ちゃ	にゃ	ひゃ	みゃ	りゃ	ぎゃ	じゃ	びゃ	ぴゃ
きゅ	しゅ	ちゅ	にゅ	ひゅ	みゅ	りゅ	ぎゅ	じゅ	びゅ	ぴゅ
きょ	しょ	ちょ	にょ	ひょ	みょ	りょ	ぎょ	じょ	びょ	ぴょ
キャ	シャ	チャ	ニャ	ヒャ	ミャ	リャ	ギャ	ジャ	ビャ	ピャ
キュ	シュ	チュ	ニュ	ヒュ	ミュ	リュ	ギュ	ジュ	ビュ	ピュ
キョ	ショ	チョ	ニョ	ヒョ	ミョ	リョ	ギョ	ジョ	ビョ	ピョ

5　　10

これまでに　ならった　かん字

△は、この　本で　ならう　よみかた。

やくそく

木
4かく

き
△もく

大きな　木
木よう日

うみの　かくれんぼ

大
3かく

おおきい　こえが　大きい
おお　大さわぎ
おおいに　大いに　よろこぶ
△だい　大すき

小
3かく

ちいさい　小さく　きる

かずと　かんじ

一
1かく

いち
（いっ）
ひとつ
ひと

一まい
一びき
一つ
一口

二
2かく

に
ふたつ
ふた

二ひき
二つ
二口

三
3かく

さん
みっつ
み
みつ

三びき
三つ
三日月
三つおり

四
5かく

し
よっつ
よ
よつ
よん

四
四つ
四じかんめ
四つかど
四ひき

五
4かく

ご
いつつ
いつ

五ひき
五つ
五日

六
4かく

ろく
（ろっ）
むっつ
む
むつ
△むい

六まい
六びき
六つ
六月目
六つおり
六日

七
2かく

しち
なな
ななつ
△なの

七にん
七ひき
七つ
七日

八
2かく

はち
（はっ）
やっつ
や
やつ
△よう

八まい
八びき
八つ
八つおり
八日

九
2かく

きゅう
く
ここのつ
ここの

九ひき
九
九つ
九日

十
2かく

じゅう
じっ〈じゅっ〉
とお

十まい
十びき
十

この　本で　ならう　かん字

よみかたは、この　本で　ならう　もの。

4 ——ページ
子 ——かん字
3かく ——かくすう
こ ——よみかた
子どもたち ——つかいかた

くじらぐも

4 子 3かく
こ
子どもたち

4 空 8かく
そら
青い　空

7 男 7かく
おとこ
男の子

7 女 3かく
おんな
女の子

8 手 4かく
て
手を　つなぐ

64 8 天 4かく
てん
あま
天に　とどく
天の川

10 青 8かく
あおい
あお
青い　空
青むし

しらせたいな、見せたいな

17 見 7かく
みせる
みる
みえる
虫を　見せる
空を　見る
よく　見える

17 学 8かく
がく
（がっ）
学校

17 校 10かく
こう
学校

17 虫 6かく
むし
虫が　いる

118 19 文 4かく
ぶん
もん〈も〉
文しょう
文字

64 20 正 5かく
ただしい
ただす
しょう
正しい　文字
しせいを　正す
お正月

まちがいを　なおそう

21 字 6かく
じ
字を　かく

かん字の　はなし

24 山 3かく
やま
山に　のぼる

64 24 水 4かく
みず
すい
水が　ながれる
水よう日

25 雨 8かく
あめ
雨が　ふる

110 31 25 上 3かく
うえ
あげる
あがる
のぼる
つくえの　上
つり上げる
おき上がる
かいだんを　上る

79 25 下 3かく
した
おりる
おろす
つくえの　下
村へ　下りる
手を　下ろす

64 39 26 日 4かく
ひ
にち
か
日が　のぼる
まい日
三日

64 26 火 4かく
ひ
か
火を　けす
火よう日

じどう車くらべ

26 田 5かく
た
田んぼ

26 川 3かく
かわ
川を　わたる

27 竹 6かく
たけ
竹やぶ

64 27 月 4かく
つき
がつ
げつ
月が　でる
一月
月よう日

74 28 車 7かく
しゃ
くるま
（ぐるま）
じどう車
糸車

29 人 2かく
ひと
人を　のせる

じどう車ずかんを　つくろう

35 気 6かく
き
気を　つける

むかしばなしを よもう おかゆの おなべ

42 本 5かく
ほん　本を よむ

45 森 12かく
もり　森へ いく

57 46 出 5かく
でる　月が 出る
だす　おかねを 出す

52 47 中 4かく
なか　おなべの 中
じゅう　うち中

49 町 7かく
まち　町に 出かける

122 54 入 2かく
はいる　町に 入る
いれる　玉入れ
いる　気に 入る

ものの 名まえ

56 名 6かく
な　名まえ

56 夕 3かく
ゆう　夕がた

56 百 6かく
ひゃく　五百円

56 円 4かく
えん　五百円

日づけと よう日

57 千 3かく
せん　千円さつ

108 64 花 7かく
はな　もの 花
か　花だん

65 休 6かく
やすむ　なつ休み
（やすみ）
やすまる　気が 休まる
やすめる　手を 休める

65 金 8かく
かね　お金
きん　金よう日

65 土 3かく
つち　土あそび
ど　土よう日

たぬきの 糸車

74 糸 6かく
いと　糸車

76 目 5かく
め　目玉

76 玉 5かく
たま（だま）　目玉

79 村 7かく
むら　村へ 下りる

80 白 5かく
しろい　白い 糸
しろ　白ぐみ

どうぶつの 赤ちゃん

80 音 9かく
おと　音が きこえる

92 赤 7かく
あか　赤ちゃん
あかい　赤い 花
あからむ　かおが 赤らむ
あからめる

92 120 生 5かく
うまれる　犬が 生まれる
うむ　けっかを 生む
せい　一年生

93 耳 6かく
みみ　耳を すます

93 王 4かく
おう　王さま

94 口 3かく
くち　口に くわえる

94 109 年 6かく
ねん　一年
とし　年を とる

95 立 5かく
たつ　いすから 立つ
たてる　いたを 立てる

97 草 9かく
くさ　草を たべる

これは、なんでしょう

104 先 6かく
さき　先に いう

ずうっと、ずっと、大すきだよ

106 犬 4かく
いぬ　すばらしい 犬

107 早 6かく
はやい　早く おきる
はやまる
はやめる

にて いる かん字

118 貝 7かく
かい　貝を 見つける

118 林 8かく
はやし　すぎの 林

118 右 5かく
みぎ　右足

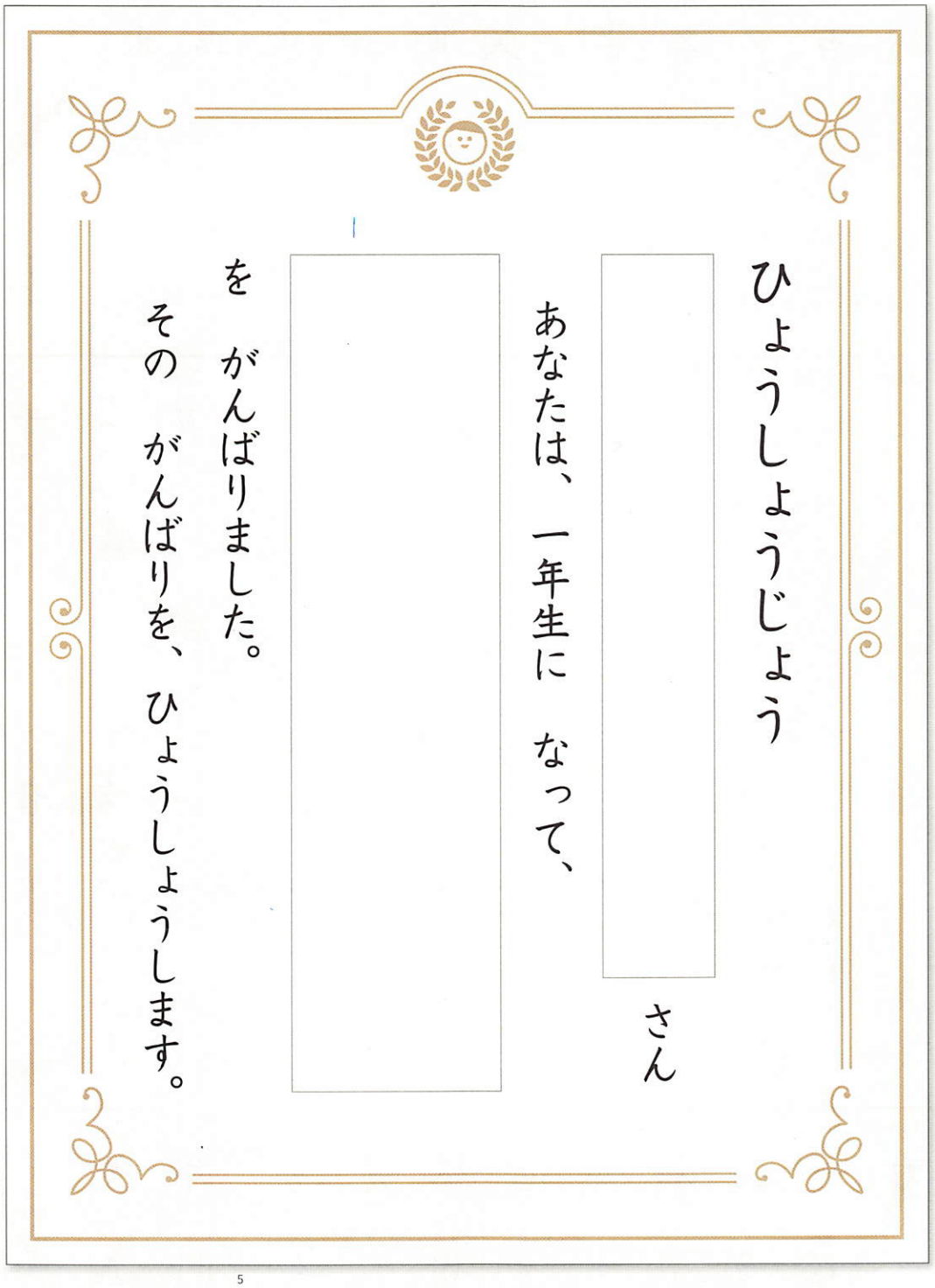
118 足 7かく
あし　右足

118 石 5かく
いし　石を ける

119 左 5かく
ひだり　左を 見る

いい こと いっぱい、一年生

121 力 2かく
ちから　力いっぱい

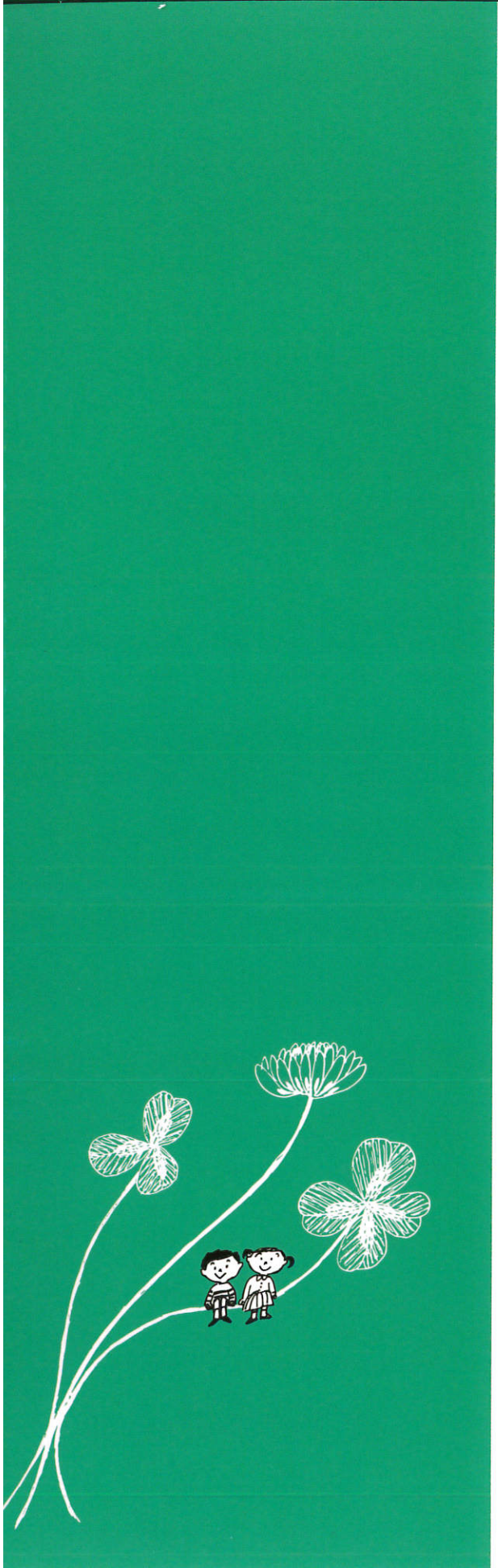


1年生に　なって，あなたが　がんばった　ことは，なんですか。
じぶんに，ひょうしょうじょうを　おくりましょう。

編集委員
甲斐睦朗　元国立国語研究所所長
髙木まさき　横浜国立大学大学院教授
青山由紀　筑波大学附属小学校教諭
赤木雅宣　ノートルダム清心女子大学教授
阿辻哲次　京都大学名誉教授
阿部　昇　秋田大学特別教授
池上　彰　ジャーナリスト
石井睦美　作家
石黒　圭　国立国語研究所教授
稲田八穂　筑紫女学園大学教授
井上一郎　前京都女子大学教授
浮田真弓　岡山大学教授
内田伸子　お茶の水女子大学名誉教授
岡田博元　お茶の水女子大学附属小学校教諭
甲斐雄一郎　筑波大学教授
鹿毛雅治　慶應義塾大学教授
桂　聖　筑波大学附属小学校教諭
茅野政徳　山梨大学教職大学院准教授
工藤直子　作家
鴻上尚史　作家・演出家
輿水かおり　前玉川大学客員教授
佐渡島紗織　早稲田大学教授
達富洋二　佐賀大学教授
田中洋一　東京女子体育大学教授
棚橋尚子　奈良教育大学教授
土山和久　大阪教育大学教授
永池啓子　横浜国立大学講師
中川一史　放送大学教授
中川李枝子　作家
中村桂子　生命誌研究館館長
長谷浩也　環太平洋大学教授
蜂飼　耳　詩人・作家
原田義則　鹿児島大学大学院准教授
藤森裕治　信州大学学術研究院教授
細川太輔　東京学芸大学教職大学院准教授
三浦登志一　山形大学学術研究院教授
邑上裕子　明星大学客員教授
森　篤嗣　京都外国語大学教授
森山卓郎　早稲田大学教授
吉永幸司　前京都女子大学教授
カラーユニバーサルデザインに関する校閲
市原恭代　工学院大学准教授
NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構（CUDO）理事
特別支援教育に関する校閲
佐島　毅　筑波大学准教授
学習のユニバーサルデザインに関する校閲
小貫　悟　明星大学教授
光村図書出版株式会社編集部
アート・ディレクション／デザイン　図工室（坂　啓典／近田宏生／堀ノ内達也）
表紙絵　大野八生　とびら詩　まど・みちお　とびら絵　seesaw.
さし絵　神山博光／河原崎秀之／澤野秋文／seesaw.／スギヤマカナヨ／田頭よしたか／高畠　純／てづかあけみ／保手浜　孝／安田尚樹
書き文字　樋口咲子
「ずうっと、ずっと、大すきだよ」
This translation published by arrangement with Random House Children's Books, a division of Random House LLC. through Japan UNI Agency, Inc., Tokyo

こくご 一 下 ともだち

38光村　国語108　小学校国語科用
年　月　日印刷
年　月　日発行
（平成三十一年二月二十五日検定済）
定価　文部科学大臣が認可し官報で告示した定価
（右記の定価は、各教科書取次供給所に表示します。）
この教科書にもとづくワークブック・解説書、ならびにこれに類するものの無断発行を禁じます。
ISBN978-4-8138-0065-1
著作者
甲斐睦朗　ほか四十三名別記
発行者
光村図書出版株式会社
代表者　小泉　茂
東京都品川区上大崎二十九-九
印刷者
協和オフセット印刷株式会社
代表者　鴨　三津夫
東京都港区浜松町一-三-一
発行所
光村図書出版株式会社
東京都品川区上大崎二十九-九
電話（〇三）三四九三-二一一一（代表）



ISBN978-4-8138-0065-1
C4381 ¥00000E

9784813800651

1924381000000

保護者の皆様へ

この教科書は，これからの社会を生きる子どもたちが，言葉に出会う喜びや，人とつながる楽しさを実感しながら，確かな「言葉の力」を身につけることを願って編集したものです。ご家庭においても，この教科書を子どもたちと語り合うきっかけとしてご活用ください。

この教科書は，次のような配慮や工夫をしています。

- カラーユニバーサルデザインや特別支援教育の観点から，全てのページについて専門家による校閲を行っています。
- 児童の学習負担を軽減するよう，本文には書き文字と差異の生じない書体を使用しています。
- 単元名や見出しには，見やすいユニバーサルデザイン書体を使用しています。
- 環境に配慮した紙，植物油インキを使用しています。

この教科書では，学習の参考となる動画などの資料を小社ウェブサイトに用意し，その箇所には二次元コードを示しています。機種やインターネット環境等によってはアクセスできないことがあります。また，通信料が発生する場合があります。読み取れない場合は，下記のURLをご参照ください。
https://m-manabi.jp/20/qr/k1g/

この教科書は，これからの日本を担う皆さんへの期待をこめ，税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。

光村図書

一ねん

くみ